校長室だより　がんばれ有小っ子　令和４年７月６日(水) 第５号

教育目標　かしこい子　やさしい子　たくましい子　文責：小松久展

忍耐力・社会性・情緒の安定を育みましょう

７月１日（金）の授業参観では、各学級で道徳の授業を参観いただきました。多くの保護者の皆様にご参観いただき、ありがとうございました。

その後の教育講演会にも、多数の保護者の皆様に参加していただきました。長崎県更生保護女性連盟会長の浦川末子先生（新切小学校区出身）を招き、「今こそ 親の出番 地域の出番」と題して講演していただきました。

※　　※

講演をお聞きし、特に共感したのが、「幼児期の豊富な体験（忍耐力・社会性・情緒の安定の育成）が人生を幸福にする。」ということです。

そして、まったく同じことが、小学校に通う学童期においても言えるのです。

毎日５～６時間の学習に向かう忍耐力や、自分の欲求を抑えて人の役に立とうとする姿勢は、成人後の職業人として欠かせない能力です。

友達と協力して課題を解決する協調性や、意見が違ってもお互い話し合って、時には譲り合って妥協点を見出そうとする社会性は、生涯を通じて必要な力と言えるでしょう。

この「忍耐力」と「社会性」をバランスよく育むには、家族ではない他者と関わり合いながら学ばせることが肝要です。浦川先生が「我が子を幸福にしたいのなら、人にまみれさせて育てなさい。」とおっしゃられたとおりです。

その上で、学童期においても「情緒の安定」には家族（特に母親）の愛情が欠かせません。以下、講演資料３ページ下段を引用します。

※　　※

③岡田尊司氏「愛着障害より」

人が幸福に生きていくうえで最も大切なものは、安定した「愛着」である。愛着とは、人と人との絆を結ぶ能力であり、人格の最も土台を形造っている。安定した愛着が形成された人間は、対人関係においても、仕事においても、高い適応力を示す。人とうまくやっていくだけでなく、深い信頼関係を築き、不要な衝突や孤立を避けることができる。困ったときは助けを求め、自分の身を上手に守ることでストレスや鬱になることも少ない。人に受け入れられ、人を受け入れ成功のチャンスをつかむ。

学校の熱中症対策とともに ご家庭でもご指導を

６月下旬から、気温が３０℃を超える日が続いています。学校でも、十分な熱中症対策を講じながら教育活動を行っているところです。

先週は、特に気温が高い日が続きました。熱中症の危険度を示す暑さ指数が「厳重警戒」の場合には昼休みに運動場で遊べる時間を１５分間に限定し、暑さ指数が「危険」の場合は運動場で遊ばないよう指導しております。

※　　※

先日、地域の方から、市教育委員会に「有家小学校の児童が下校時にマスクをしていました。熱中症が心配なので、マスクをはずすよう指導されてはどうですか。」という問い合わせがあったそうです。

６月１６日付の文書でお知らせしたように、学校では、体育の授業中や登下校時、昼休みに外で遊ぶ場合はマスクをはずすように指導していますが、子どもたちにとって、これまでの習慣を変えることは難しいようです。

ご家庭でも、状況に応じてマスクを着脱する判断力を身につけるよう、指導していただければ幸いです。

※　　※

明日以降も暑い日が続きます。「早寝、早起き、朝ごはん」を心がけて、基本的生活習慣を整えることで、熱中症になりにくい体力が身につくよう、ご家庭でもご指導をお願いします。